

広島市植物公園 見どころ案内

オキナグサ
(キンポウゲ科)
日当たりのよい草原に生える多年草です。全草が白い毛に覆われています。

新型コロナウイルス感染症対策のため、フクシア温室、展示温室、サボテン温室、展示資料館、休憩展望塔の公開を中止しています。また、実演会など全ての行事を中止しています。森のレストラン、森のカフェ、花売店は営業しています。

ヒマラヤユキノシタ (ユキノシタ科)
団扇や杓子の様な葉の間から長い花茎を伸ばして、その先に淡いピンクの花を密集して咲かせています。

アラビス・フェルディナンデイ・コブルギイ (アブラナ科)
ブルガリア原産。ピリン山脈の標高 2000~2800 m の石灰岩地に群生します。ヤマハタザオのなかまで斑入り品種もあります。種小名は 19 世紀のブルガリアの王様に因みます。

ヒスイカズラ
(マメ科)
フィリピン原産のエメラルドグリーン色の花です。房になってぶら下がっています。

ヒメアリアケカズラ
(キョウチクトウ科)
南アメリカのブラジルなどに分布する常緑低木。広く栽培されているアリアケカズラに似ているが、蔓(つる)性ではない。沖縄では春から秋にかけて花が見られます。3~5 cm ぐらいの黄色い花をつけています。実は花の美しさには似合わず、小さなドリアンの様なとげとげしたものになります。

クリスマスローズ
(キンポウゲ科)
ベゴニア温室周辺やログガーデンで咲いています。これから春に向けてバラエティーに富んだ花色で彩られます。

タンチョウソウ
(ユキノシタ科)
イワヤツデとも呼ばれます。根茎からヤツデを思わせる切れ込んだ葉を広げます。花茎の先に白い小さな花が密集して咲いています。

カランコエ
(ベンケイソウ科)
アフリカ、アラビア半島、アジアに約 100 種類が分布し、色々な園芸品種が作り出されています。サボテン温室閉鎖のため、見頃ものを順次展示します。

トサミズキ
(マンサク科)
名前のお通り、高知を中心とした四国山地の石灰岩地に多く生育しています。つり鐘状の淡い黄色の花が、鈴なりに咲いています。

ボケ (バラ科)
芝生広場からを香の小路に上がる石段の脇に咲いています。名前の由来は果実が瓜に似ていることから、木になる瓜で「木瓜」と呼ばれていたのが転訛したものとされています。果実を果実酒などにします。

